

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

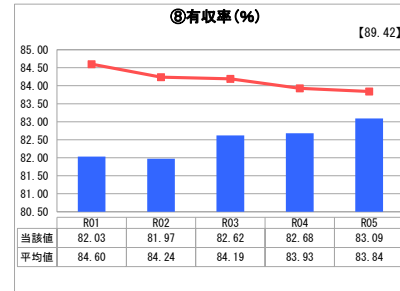
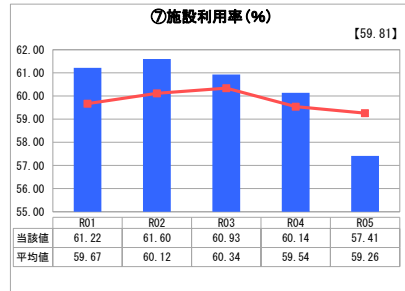
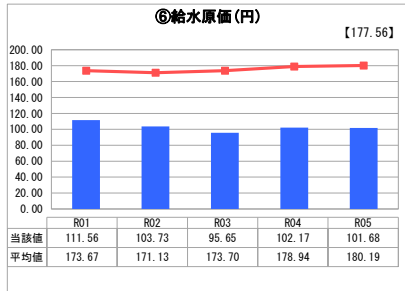
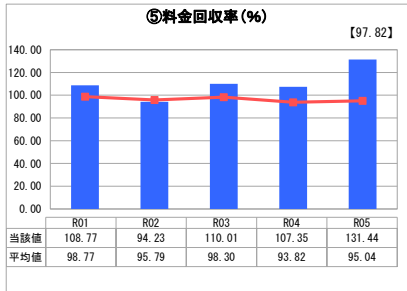
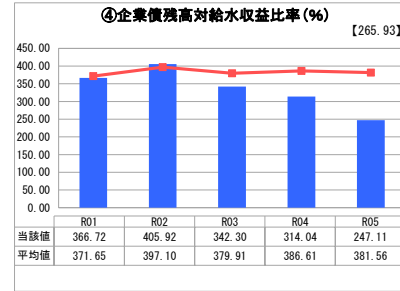
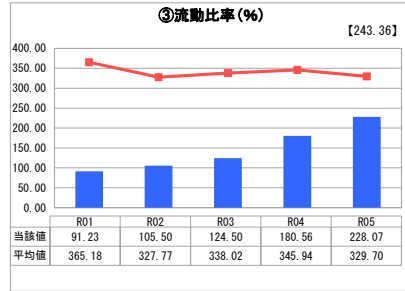
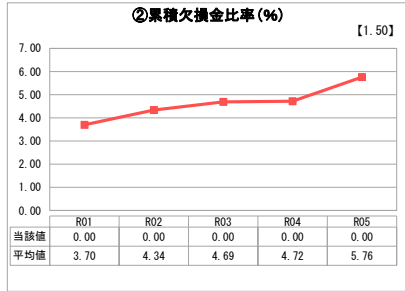
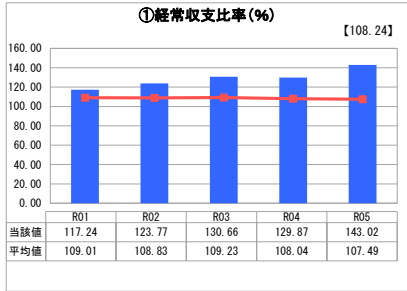
埼玉県 上里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)	
-	70.58	99.86	2,541	

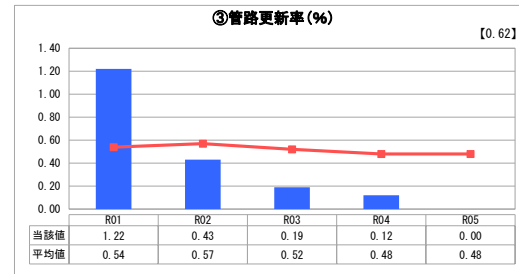
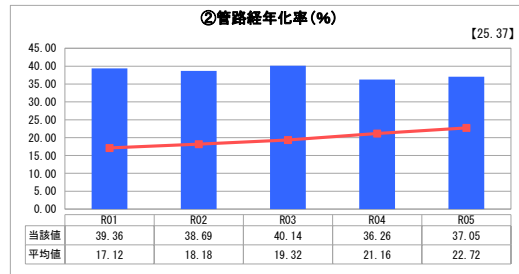
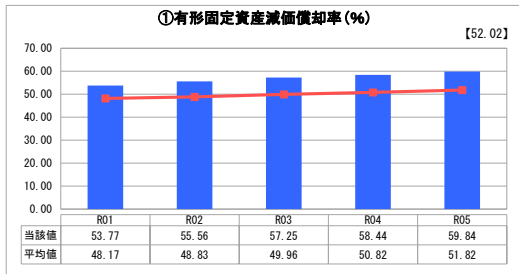
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,549	29.18	1,046.92
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,439	28.91	1,052.89

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率  
100%以上かつ平均値を上回る数値で推移しており経営は適切であると考えられる。経営を維持しつつ、更新投資を図っていく。

②累積欠損金比率  
累積欠損金は発生しておらず、健全な状況と考えられる。

③流動比率  
平均値を下回っているが、指標は100%を超えているため短期的な支払いは確保されている。企業債償還の減少と収入増加により前年比増加となっている。

④企業債残高対給水収益比率  
企業債残高減少が主な要因である。今後も経営の健全性確保に努める。

⑤料金回収率  
R4年の料金改定に伴い収益の増加となった。100%を超えているため給水収益により給水に係る費用を賄えている。

⑥給水原価  
上里町の水源の大部分が地下水であり浄水処理費が少なく済むことから、平均値よりも低い水準となっている。

⑦施設利用率  
一日配水能力に対する平均配水量の割合であり、前年比減少している。大口利用者の使用量の低下と節水機器の導入が要因であり、減少傾向にある。

⑧有収率  
年間給水量に対する有収水量の割合を示す指標で、平均値以下で推移している。低水準の主な要因として、管路の経年変化による漏水が考えられる。改善へ向け引き続き、計画的な管路更新を検討していく。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率  
平均値よりも高いことから上里町の施設や管路の老朽化が進んでいることを示している。引き続き計画的な更新・老朽化対策の検討を行いながら事業を行っていく。

②管路経年化率  
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合いを示している。町内各地区の地元簡水道組合が個別に整備していた管路を、H26年に町水道事業が引き継いだことが平均値を上回っている一因と考えられる。毎年の更新で40%前後の水準を維持しているが、今後も計画的な管路更新・老朽化対策に取り組む必要がある。

③管路更新率  
当該年度に更新した管路延長の割合を示す指標である。今後は経営状況を維持しながら計画的な管路更新を行っていく必要がある。

### 全体総括

経営の健全性・効率性については、経常収支比率や料金回収率が平均値を上回る値となっており、概ね健全であると考えられる。

しかし、有収率・流動比率は類似団体より低い状態である。有収率低位に関しては経年劣化が要因のため、漏水調査・漏水修繕を継続的に実施し効率性を高めるとともに、計画的な管路更新により改善に取り組む。流動比率については、料金改定により改善傾向にあるが、引き続き健全な財政運営の維持により料金収入の確保に努め、将来の更新需要へ備える取り組みを行う必要があると考える。施設利用率については類似団体の平均値を下回っている状況なので今後は水需要を考慮し施設規模の最適化を図ることが必要である。

また、水道事業に統合される前の、各地区の簡水道組合の管路の老朽化問題や、災害時に安定した給水を確保するための管路・施設の維持と耐震化が今後必要となるため、これらを含んだ総合的な計画を立て、事業の運営を行う必要がある。